

報道関係者各位

平成 24 年 3 月 13 日

財団法人 児童健全育成推進財団
マニユライフ生命保険株式会社

被災地 岩手県釜石市に、子どもおよび地元住民の皆様のための 「鶴住居児童館」が 3 月 9 日に開館

セレモニーには 元サッカー日本代表 前園真聖さんが駆けつけ、
子どもたちと新しい児童館でふれあいました。

全国の児童館の活動支援を行い、子どもたちの育成に取り組む財団法人児童健全育成推進財団（以下育成財団、東京都渋谷区、理事長：鈴木 一光）と、未来を担う子どもたちへの支援に積極的に取り組むマニユライフ生命保険株式会社（以下マニユライフ生命、東京都調布市、代表執行役社長兼 CEO：クレイグ・ブロムリー）は、3月9日（金）に岩手県釜石市鶴住居（うのすまい）地区に建設した児童館のオープニングセレモニーを開催致しました。

釜石市鶴住居地区は、東日本大震災の甚大な被害の影響で今も多くの住民の方々が仮設住宅での生活を強いられ、児童館も津波により流出し一時的に場所を移して開館している状況でした。この度の児童館建設は、鶴住居地区にて併行して建設が進む仮設小学校・中学校のオープンのタイミングに合わせて、子どもたちの遊び場・居場所として児童館の再開を願う住民の方々の思い、さらにその要望に是非応えたいという育成財団とマニユライフ生命の思いから児童館の建設が実現しました。マニユライフ生命およびその親会社であるマニユライフ・ファイナンシャル・グループの資金的支援のもと、育成財団が建設プロジェクトのコーディネートを担当し、大震災から一年を迎える 3 月に竣工、開館を迎えることができました。

当日は、特別ゲストに元サッカー日本代表 前園真聖さんがお祝いに駆けつけ、子どもたちとふれあいました。新たな児童館の開館に子どもたちは「きれいで広々としていて気持ちがいい」「新しい自分たちの遊び場ができて嬉しい」「学校が終わったら宿題や読書をしに来たい」と喜びの声をあげていました。また、当児童館の館長となる地元釜石市の菊池久さんは次のように語っています。「皆様のご支援・ご協力のおかげでこんなに立派な児童館を立てて建ていただき有り難うございました。子どもたちも新しい居場所を作っていただけて本当に喜んでいと思います。また、これからは地域の方々にもご利用いただき交流を深めていければ良いと考えています。」



セレモニー当日の記念写真
（関係者及び地元児童たち）

【「鶴住居児童館」施設概要】

施設名称：鶴住居児童館

建設地：岩手県釜石市鶴住居町 3-12-1（紀州造林工場跡地）

建設概要：コンテナハウス／1階建

延床面積：148.62㎡（約45坪）

着工日：2012年1月12日（木）

竣工日：2012年3月6日（火）

開館日：2012年3月9日（金）

開館時間：平日 9:45～18:45／土曜 8:00～18:45 ※日曜・祝日、年末年始休館

児童館運営：釜石市、社会福祉法人釜石市社会福祉協議会

利用対象者：全ての子どもたち（0～18歳）、保護者、地域住民

【協力・支援団体及び個人】

空間設計アドバイザー：安井建築設計事務所、特定非営利活動法人子ども健康フォーラム

床材提供：フォルボ・フロアリング B.V.日本支店

玩具・備品寄贈：マテル・インターナショナル株式会社、福井市すいせん児童館、室蘭市祝津児童館、春日井市げんきっ子センター、あいちのじどうこうせいいんねっとわーくサークルA、さくらぎこども館、他多くの個人の方

寄付金協力：全国児童館・児童クラブ北海道大会実行委員会、きたなごやこどもフェスタ実行委員会、グループD.I.L

【鶴住居児童館特徴】

■子ども関連施設を多数手がける安井建築設計事務所の技術力と、子どもを取り巻く療養環境改善に尽力している特定非営利活動法人子ども健康フォーラムの豊富な経験にもとづき、子どもの目線に立った安全で広々とした空間が実現しました。また外壁塗装からカーテンにいたるまで、視覚にも心地よい工夫が施されています。ステージにもなる着替えコーナー、小学校高学年や中学生のための静養コーナーも設置します。

■フォルボ・フロアリング B.V.日本支店様の寄贈により、天然素材でつくられたリノリウム床材を全面に使用しています。人にも地球にも、安心安全な床材です。

■児童館には(株)エーケーホームのコンテナが用いられています。移設が容易であり、強度もあるコンテナの使用により、一日も早く児童館をお送りしたいという夢が実現しました。リサイクル可能な面からも環境配慮を考慮しています。



児童館開設を喜ぶ地元児童たち



（左から）①フォルボ・フロアリング B.V. エリック・デ・グルート様②児童健全育成推進財団 鈴木一光③鶴住居小学校児童代表藤原茅里さん④元サッカー日本代表 前園真聖様⑤マニユライフ生命 森田均⑥マニユライフ生命 堀浩樹⑦釜石市保健福祉部子ども課 生田久美子様



前園さんから児童館へサッカーボールの寄贈



児童館に寄贈された玩具や図書

【ゲストプロフィール】

前園真聖(まえぞの まさきよ)氏。1973 年生まれ。

1992 年鹿児島実業高校から Jリーグ・横浜フリューゲルスに入団。

1994 年には U-21 日本代表に選出され、主将として 28 年ぶりとなるオリンピック出場に貢献。1996 年、アトランタオリンピック本大会では、ブラジルを破る「マイアミの奇跡」などを演出し、サッカーファンのみならず、広く注目される事となる。

その後、海外のクラブチームを渡り歩き、2005 年に現役引退を表明。

引退後は 2006 年 FIFA ワールドカップドイツ大会、2008 年北京オリンピックともに現地にて取材活動をし、サッカーだけではなく多岐にわたる競技を取材するなど解説者そしてジャーナリストとして活躍。

2009 年にはラモス監督率いるビーチサッカー日本代表に召集され、同年 11 月に開催された UAE ドバイでの W 杯において、チームのベスト 8 に貢献。

現在は自身の ZONO サッカースクールを主催し、普及活動を行う。



財団法人児童健全育成推進財団について

財団法人児童健全育成推進財団(「育成財団」)は、児童館・放課後児童クラブを応援し、子どもたちの健全育成を支える財団法人です。研修会の開催、認定資格制度、児童福祉に関する調査研究、情報の提供など関連の事業を行っています。

児童館は、児童福祉施設として、0～18歳までの子どもたちを対象に遊びを通じた健全育成活動、子育て支援活動、地域の子ども育成・子育て環境づくりをおこなっています。また、放課後児童クラブは、放課後の子どもたちの健全育成を支え、子育て支援の観点からも期待されている事業です。

東日本大震災発生にあたり、育成財団は被災した児童館・放課後児童クラブの活動再開などを支援し、子どもたちの居場所・遊びコミュニティづくりに取り組んでいます。

育成財団のホームページは次の通りです。(http://www.jidoukan.or.jp/)

マニユライフについて

マニユライフ生命保険株式会社(「マニユライフ生命」)は、マニユライフ・ファイナンシャル社のグループ企業です。

マニユライフ・ファイナンシャルは、主にアジア、カナダ、米国を中心に事業を展開しているカナダ系大手金融サービス・グループです。マニユライフは信頼に支えられ、その信頼に真摯に応える企業として、また力強さに満ち、明日を切り拓く企業として、人生で最も重要な資金面の決断を行う際の解決策を、お客さまにお届けすることを目指して、2012 年で創業 125 周年を迎えました。同社職員、エージェンต์および販売パートナーの国際的なネットワークを通じて、世界各地の数百万のお客さまに経済的保障や資産運用・形成のための商品・サービスをご提供しています。

また、世界各地の機関投資家のお客さまには、資産運用サービスもご提供しています。マニユライフ・ファイナンシャルとその子会社の管理運用資産は、2011 年 12 月 31 日現在 5,000 億カナダドル(4,910 億米ドル)となっています。カナダおよびアジア地域ではマニユライフ・ファイナンシャル(マニユライフ)として、米国においては主にジョン・ハンコックのブランドで事業を展開しています。マニユライフ・ファイナンシャルは、トロント証券取引所、ニューヨーク証券取引所およびフィリピン証券取引所においては「MFC」の銘柄コードで、また、香港証券取引所では「945」で取引されています。

マニユライフ・ファイナンシャルについての詳細はウェブサイト(www.manulife.com)をご覧ください。マニユライフ生命のウェブサイトは次の通りです。(www.manulife.co.jp)